

長期モニタリング計画に関する各 WG 等での検討結果

1. 背景

平成 22 年度第 2 回知床世界自然遺産地域科学委員会において、平成 24 年度より実施される長期モニタリング計画に位置付けられたモニタリング項目の評価について、各 WG 等で分担することとなり、その分担について確認することとされた。

2. 各 WG 等における検討結果

エゾシカ・陸上生態系ワーキンググループ

平成 23 年度第 1 回エゾシカ・陸上生態系 WG (6 月 12 日開催)において検討された。WG が担当する長期モニタリング計画のモニタリング項目については了承された。

エゾシカ保護管理計画のモニタリング項目と重複するモニタリング項目の確認がなされ、10 項目が重複するモニタリング項目となった。

適正利用・エコツーリズムワーキンググループ

平成 23 年度第 1 回適正利用・エコツーリズム検討会議 (6 月 17 日開催)の後に、メール上にて各委員に意見照会する形で検討。WG が担当する長期モニタリング計画のモニタリング項目で「ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査」については、WG として担当できないため、科学委員会又は各 WG の委員のなかから担当委員を選出し、モニタリング項目の評価をお願いするという方法が提案された。

河川工作物アドバイザー会議

平成 23 年度第 1 回 (4 月 14 日開催)及び第 2 回河川工作物アドバイザー会議 (6 月 24 日開催)において検討された。AP が担当する長期モニタリング計画のモニタリング項目については了承された。

また、アドバイザー会議では、長期モニタリングに係るサケ科魚類及びオショロコマの調査方法並びに対象河川等について議論がされている。

海域ワーキンググループ

平成 23 年度第 1 回海域ワーキンググループ (7 月 23 日開催)において検討された。

ヒグマ保護管理方針検討会議

平成 23 年度第 1 回ヒグマ保護管理方針検討会議 (8 月 4 日開催)において検討予定。